

区議会だより

発行/江戸川区議会
江戸川区中央1-4-1
ダイヤルイン 5662-6736
<http://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/>

216号の
主な記事

- 第1回定例会概要、議員提出議案の概要..... 1 ページ
- 議案、請願・陳情の処理状況..... 2 ページ
- 代表質問、一般質問..... 3～5 ページ
- 予算特別委員会の概要..... 6～8 ページ

第1回定例会日程

2月17日……議案上程、委員会付託
19日……代表質問、一般質問
20日……追加議案上程、委員会付託、一般質問
23・24・26・27日) ……予算審査
3月2・3・5・9日)
10日……議案審査
11日……請願・陳情等の審査
19日……追加議案上程、委員会報告及び表決

平成27年第1回定例会

平成27年度各会計予算案を可決

**区民の暮らしを守り健全財政を堅持すべく、
限られた財源で最大限の区民サービスを
実現する総額3,502億円**

平成27年第1回定例会は2月17日から3月19日までの31日間の会期で開かれました。

この定例会には区長から、平成27年度各会計予算案を含む27件の議案、同意1件、報告4件が提出されました。各会計予算案については、予算特別委員会を設置し、今後の区政方針や諸施策などについて詳細に審査を行いました。

これらの議案は、いずれも原案のとおり可決されました。

議員からは「都市農業の振興策強化等を求める意見書」を含む5件の議案が提出され、それぞれ可決されました。意見書は、関係機関に送付しました。

この定例会の会議録は、6月中にできあがります。詳細は、区議会ホームページ、お近くの図書館、または区議会事務局をご覧ください。



新川さくらまつり

本庁舎移転候補地について

3月19日の本会議において、庁舎移転問題検討特別委員会の検討結果報告を受け、採決の結果、本庁舎移転の候補地を「船堀四丁目所有地」に決定し、区長に提言を行いました。

また、3月25日に区議会議長から東京都知事あてに、船堀四丁目所有地の譲渡についての要望書を提出しました。

※採決の結果

賛成38人(自由民主党、公明党、民主党・改革クラブ、祖国日本、
えどがわ区民ひろば、生活者ネットワーク、青空、一人の会)
反対 3人(日本共産党)

議員から出された議案

—意見書は各関係機関に送りました—

○ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

〔衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣 あて〕

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の対象は限定的であり、助成対象外の患者の経済的・社会的負担は大きく、一層の行政的支援が必要であることから、ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設することなどを国に求める。

○(仮称)手話言語法の制定を求める意見書

〔衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣 あて〕

「手話は言語」であることが明記された「障害者の権利条約」がわが国においても批准されたことを受け、「(仮称)手話言語法」を早期に制定するよう国に求める。

○都市農業の振興策強化等を求める意見書

〔内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、農林水産大臣、国土交通大臣 あて〕

都市農地の保護と都市農業の持続的な発展をめざし、相続税納税猶予制度の適用を受けた生産緑地について、一般農地と同様に賃借を可能とすることなどを国に求める。

○江戸川区議会委員会条例の一部を改正する条例

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、「教育委員会の委員長」を「教育委員会教育長」に改めるほか、規定を整備する。

○江戸川区政務活動費の交付に関する条例の一部を改正する条例

政務活動費の交付対象を会派及び会派に所属しない議員と定めるほか、規定を整備する。

※採決結果につきましては2ページをご覧ください。

議案等の概要と結果 (○…賛成、×…反対)

会派名：自民…自由民主党、公明…公明党、民改…民主党・改革クラブ、共産…日本共産党 日本…祖国日本、えど…えどがわ区民ひろば、生ネ…生活者ネットワーク、一人…一人の会 (議長を除く 計41名)

Table with columns: 件名, 概要, 自民, 公明, 民改, 共産, 日本, えど, 生ネ, 青空, 一人, 賛成, 反対, 結果. Rows include 区長提出議案 (Budget, etc.), 条例(新規), 条例(一部改正), その他, 報告, 議員提出議案, and 今回の定例会で結果が出された請願・陳情.

※趣旨採択…議会としては、願意について十分理解できるものの、当分の間は願意どおりの実現は困難であるため「趣旨には賛成である」という意味の議決です。
◎今定例会までに結論の出ない請願・陳情及び発議案26件は、審査未了となりました。

本会議インターネット中継を手話通訳付きで配信します。
平成27年第1回臨時会のライブ中継から、手話通訳の映像を合成して配信を始めます。より多くの方に本会議中継をご覧いただくことで、これからも身近な区議会を目指してまいります。

区議会だより編集委員会 (◎委員長 ○副委員長)
◎ ふじさわ 進一 ふかえ 一之
○ 川瀬 やすのり

区政への質問

2月19日に代表質問および一般質問、20日に一般質問が行われ、区政全般の課題について活発な論議が展開されました。ここでは質問と答弁の要旨を掲載します。

代表質問

元気と笑顔、縁に恵まれた江戸川区創造に全力



自由民主党
ふじさわ 進一

今年生誕83年を迎える本区は区と区民が力を合わせて大規模な台風被害やごみ公害問題、航空機騒音問題、成田新幹線問題など多くの困難を乗り越えてきた。その一方で保育ママや青少年の翼、総合人生大学、すすくすくスクール、チャレンジザドリームなど全国から注目される実績を上げている。また、多田区長もさまざまな困難を乗り越えてきた。就任直後には健全財政推進本部を立ち上げ負債を減少、財政の健全化を進め、リーマンショック後には216事業の見直しを行い、収入に対する負債返済率の低さが5年間で3度の日本一となる程に回復するなど、2度にわたる財政危機を乗り越え、堅実な行政運営を行ってきたことは大きな功績である。こうした功績に魅力的な周辺環境が加わることで本区の永住意向は74.4%にもものぼっている。今後、少子高齢化や学校の適正配置、庁舎移転などまだまだ多くの課題を抱えている中で、68万人の区民が笑顔で生活し、日本中から住みたい街として期待されるような新たな江戸川区創造のために必要な理想の姿とは。

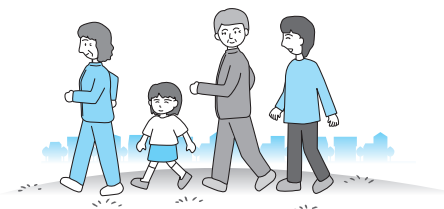
戦後、都市的基盤のない本区は区と区民が一体となり、さまざまな課題に取り組み、強固なコミュニティを作り上げてきた。課題は時代によって変わっていくが、郷土愛や固い絆、良きコミュニティ、良き住民性から生まれる地域力をまちづくりの課題解決に活かしていく。理想の姿は区や区民、議会が思いを一つにして課題に取り組む中で生まれてくるものであり、68万区民の笑顔は普遍のものであると考えている。

本区の出生率は23区で最も高く子どもが多い街であるため、小中学校の教育のさらなる充実が必要。学力向上とともに規範意識の高い人間力を備えた人材育成が求められている。そのためには校外で地域と関わり、人と人の結びつき、心の交流から感謝・思いやり、地域への理解などを学ぶことが重要である。地域住民の学校周年行事や運動会、文化祭への熱心な参加と子どもたちの「お背中流し隊」などへの積極的な参加など学校・家庭・地域社会の連携により、地域力を活かし開かれた学校づくりが進められてきた。一方で、学校行事参加者の固定化や少子高齢化の進展によって「現在の学校と地域のあり方」、「地域の活性化と教育の役割」の再構築が必要である。地域の象徴・公的共有財産である学校と地域との今後の関わり方は。

本区は「コミュニティが学校を作り、学校がコミュニティを作る」、「地域で育つ、地域が育てる学校づくり」という理念のもと、開かれた学校づくりを進めている。子どもたちが地域に助けられるだけでなく、「(仮称)一人暮らし熟年者へのジュニア訪問員活動」のように学校

を離れた場でも地域を活性化するための一員としての役割を教えるとともに子どもたちが大人になった時に地域を支えるという意識を高める教育を行う。良き地域には良き子どもが育ち、良き地域の未来が訪れると考えている。

本区は高齢化率が20.3%と全国的にも若く、介護保険認定率、後期高齢者医療費も低いことから健康に恵まれた熟年者が多い自治体であることがわかる。元気な熟年者の活躍の場としてリズム運動やカルチャーセンターなどを設けており、生きがいに力を入れてきたが、くすのきクラブの会員減少やシルバー人材センターにおける受注減傾向など課題も増えている。今後も少子高齢化が進む中で、元気な熟年者の知恵と経験を活かし、笑顔と活力のある熟年者社会の構築を。



笑顔と活力のある熟年者社会

本区は介護保険料認定率や後期高齢者医療費が23区で最も低く、元気な熟年者から多くの知恵と力をいただき、少子高齢化社会を力強く支えてもらっている。この世代の元気を維持し、社会貢献につなげるため、総合人生大学などだけでなく、サークル活動やボランティア活動など活躍できる環境づくりが必要である。多くの方と協力し、これから熟年者になる世代にも適合する幅広く新しい活躍の場を作っていく。



葛西臨海公園に流れるプールを! 瑞江に交通公園と新バス路線を!

公明党
川瀬 やすのり

5期目に挑戦する多田区長の今後の区政運営への決意と将来ビジョンは。

将来夢が持てる地域、希望や自信、誇りを持てる江戸川区を目指していきたい。そのために区民の皆様や議会、行政が持てる力をお互い出し合っていくことを今後の区政の柱としていきたい。

子ども・子育て支援事業について

①新制度導入により、待機児童解消に向けてどのような施策が実施されるのか。

②私立幼稚園保護者負担軽減制度は今後も継続すべきと考えるが区長の所見は。

①空きがでている園の資源を有効に活用する。また、低年齢児に限った小規模保育事業を進め、合理性を追求し無駄をつくらないようにしていく。子育て支援として、保育所も必要だが、ワーク・ライフ・バランスを社会的に拡大し、仕事と育児を両立できる女性の働き方を模索していきたい。

②新制度への移行の有無にかかわらず、保護者負担の水準はこれまでと同様にしていく。

2020年東京オリンピック・パラリンピック

のカヌースラローム競技場の建設にあたり、区がオリンピック・レガシー委員会に示した大会後のプールなどの施設の利活用についての要望内容とその実現のためにどのように取り組むのか。また、東京での大会開催の効果を本区のスポーツ振興や文化交流に最大限活かせるような取り組みを。

江戸川区につくられるカヌー競技場は全国あるいは国際的にも開かれたものになっていなければいけない。国内唯一の都市型スラローム競技場となるため、国内外のさまざまなカヌー競技やレジャー、ラフティングなど幅広く活用し、広く多くの皆さんと使っていただけるような運営を都に要望した。また、陸上競技場等の区内スポーツ施設は練習会場として使われるため、国際的レベルのスポーツに触れる機会となる。出来るだけ多くの接点を持ちたい。

地方教育行政法の改正により江戸川区の教育はどのように変わるのか。また、本区が目指す子ども像と今後の教育へのビジョンについて区長の所見は。

教育がその地域の個性にあったものとして、よりよく幅広いものになるために自治体の意向と融合することとなる。総合教育会議で議論をして、地域と一緒にこれからの教育の問題について考え、取り組んでいく。日本のこれまでの教育、あるいは江戸川区で行われてきた素晴らしい学校教育をしっかりと維持しながら、さまざまなプラスの要素を加えていく。

東部地域の諸課題について

①今井児童交通公園を防災公園に整備し、江戸川2丁目に防災機能をもつ「新たな児童交通公園」の設置を。

②瑞江駅から江戸川消防署瑞江出張所を通り、一之江駅に向かうバス路線の新設とさらに葛西駅方面、東京臨海病院へ向かうバス路線の検討状況は。



バス路線の拡充

①江戸川4丁目の都住は移転が合意され、これからいろいろな方々の意見を聴きながら防災公園として整備していく。また、交通公園は敷地の広さの面や地域の皆さんの意向もあるため、江戸川2丁目に移すことを考えている。

②瑞江駅から一之江駅までのルートは、京成バスが昨年12月、国に認可申請をしている。認可がおり次第、運行が可能となる。途中に4カ所の停留所ができ、便数はこれからの協議となる。また、東京臨海病院方面への延伸も協議中であり、是非実現したい。

江戸川区の将来への展望



民主党・改革クラブ
ふかえ 一之

江戸川区の将来への展望

①税制改正による歳入減や学校統廃合等による歳出増など厳しい財政運営が予想されるなかで、特別区交付金や区民税の見通しを踏まえ、今後の区政運営にどう取り組むか。

②跡地利用を含めた庁舎移転の今後のスケジュールは。

③学校統廃合によりできる跡地は区や地域の重要な財産であるが、今後の利用方法は。

④外水氾濫に対する現実的な避難方法として本区の地域力を活かした災害対策を。

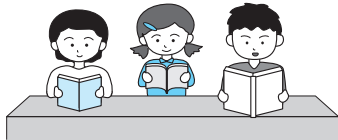
☞ ①景気は緩やかに回復しており、区民税は微増と見込んでいる。特別区交付金は景気や法人住民税の国税化などの影響を受けるが今後も健全財政に努め、多様な行政需要に対応していく。

②議会の議決を受け、都と協議し合意を得てから跡地利用も含めた具体的な検討を行う。それまでは調査・研究を進めていく。

③他区の事例を見てもさまざまな方法で利用されている。活用方法はしっかりとルールを決め検討していく。

④想定される被害に対して、避難時の物資の補給方法や自助共助の推進など細部まで研究し災害対策のイメージを作り上げていく。

☞ **学力向上は本区の長年の課題であり、区全体での取り組みが必要である。学力と体力向上のため、小中連携を含めた今後の教育施策は。**



「読書科」の取り組みについて

☞ 土曜授業や補習の充実と生活リズムの向上により学力の向上を、また1校1取組み運動を通じて、体力の向上を図る。小中連携は来年度立ち上げる委員会で検討していく。

☞ **子どもの想像力などを育成するために実施されている「読書科」の現在までの評価は。**

☞ 本好きの子どもは着実に増えている。今後、研究校の成果を各校で共有して学校間の格差を克服していきたい。

一般質問

待機児「0」を目指して！
オリンピックのおもてなし



自由民主党
田島 てつたろう

☞ 日本を訪れる外国人旅行者は近年増加傾向にあり、政府は東京オリンピック・パラリンピック開催までに海外からの旅行者数を2千万人に引き上げるとい目標を掲げている。今後本区にも多くの観光客が訪れることが予想されるが、行政だけでは対応に限界があることから地域力を活かしたおもてなしが求められる。そこで、シドニーやロンドンオリンピックのようにボランティアの協力が不可欠であり、ボランティアの育成や募集のための準備が必要である。語学ボランティアに協力していただける方にバッジやシールを身につけてもらい、さらには語学ボランティアに関心のある人には外国人留学生との交流など語学を取得する機会を与えるような積極的な取り組みが必要である。また語学以外にも協力できるボランティア情報を共有するなど、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、68万人の区民とともに区全体で「おもてなしシティ・えどがわ」の構成に向けた

取り組みと区内施設等でオリンピック開催までのカウントダウンパネルの設置を。

☞ 昨今の日本は人を思いやる気持ちが希薄でおもてなしの心はないと主張する人もいるが、本区は挨拶や相手を思いやる気持ちなどおもてなし体質は十分にあると考える。語学などについて、区民の皆様とおもてなしの方法やボランティアの養成について考えていく。

☞ **新中川河川敷の再整備について**

①現在、新中川のボートの暫定係留率は50%程であり、使われていない係留柱は劣化し、景観を損ねている状況である。係留所の集約と不要な係留所の撤去を。

②新中川を親水公園のように水に親しめる親水河川とするため、新中川堤防上に設置されているソーラー灯の点灯時間の延長を。

☞ ①新中川は将来予想される大雨洪水から街を守るため重要な役割を担っている。これまでも不法係留や河川敷の不法工作などの問題を解消し、治水機能を確保した経緯がある。今後も新中川の役割を踏まえ、暫定係留施設のあり方について都と協議していく。

②現在設置されているソーラー灯の点灯時間は6時間程度であるが、今後、より明るく点灯時間の長いものに切り替え、14時間程度点灯できるよう整備していきたい。

☞ **都市計画道路補助第285号線北部のJR小岩駅周辺再開発と南部の瑞江地区の区画整理事業は順調であるが、鹿骨4丁目から千葉街道までの未着工部分は狭く交通量の多い道路であるため歩行者、自転車利用者の安全確保が困難であることやバスが通れないなど利便性が悪い。補助第285号線が整備されることで小岩から鹿骨方面への交通の利便性が向上し、長年の課題であった南北交通問題の解消につながる。鹿骨から千葉街道までの未整備区間の早期着工により補助第285号線と橋通りへのアクセス整備を。**

☞ 補助第285号線は不燃化特区に指定された小岩方面から鹿骨方面を結ぶ長大路線であり、バス路線の利便性の面からも重要な路線である。関係部署と連携しながら適切な時期に着手できるよう努力する。

☞ **「子どもを産んで育てたくなるまち」として保育ママ制度を始め、子育て支援策の充実している本区でも、待機児童はゼロに至らない。保育園の新設を求める声が上がっている一方で、働く女性の支援策の一環として会社内に「事業所内保育所」を設置する事業所が増えている。そこで、待機児解消策と女性の社会進出、女性が輝く社会づくり促進を率先して実践するために区役所新庁舎に庁内保育所の設置を。**

☞ 面白い考え方ではあるが、公務員には待機児である0～2歳児のために育児休業制度がある。まずは、この制度を活用することが大切であり、ご提案は新庁舎建設時の参考にしたい。



熟年者施策の構築と
空き家利用の取り組みなど



公明党
堀江 そういち

☞ **第6期介護保険事業計画について**

①第6期介護保険事業計画における地域包括ケアシステムの構築について、新たに区の事業となる要支援者の訪問・通所事業をどのように取り組むのか。

②団塊の世代を始めとする定年後の皆さんが地域社会に参加するきっかけづくりを。

③国家戦略とした認知症対策「新オレンジプラン」が国から発表されたが、本区の認知症対策は。

☞ ①当面は介護事業者にお願いするが、将来的にはNPO法人・企業・ボランティアなどの多様なサービスの提供を整備することで地域力を活かすことのできる地域社会を目指していく。

②来年度に熟年者向けの地域情報誌を発行し、地域貢献、趣味や就労などのさまざまな活動に参加するきっかけ作りをしていく。

③本人に対しては熟年相談室に認知症の地域支援推進員の配置や早期発見・早期対応の仕組みづくりをしていく。家族に対しては介護者交流会の実施、若年性認知症の家族会の支援を行う。介護サービス事業者へは認知症の研修を充実させ、区では認知症サポーターの養成を継続していく。今後も関係機関と連携をしながら認知症になっても安心して生活ができる地域づくりに取り組んでいく。

☞ **今後の空き家対策について**

①本区では区内の家屋を悉皆調査し、危険と思われる家屋について個別指導を行ってきた。「空家等対策の推進に関する特別措置法」が成立したが、これから本区はどのように取り組んでいくのか。

②利活用が可能な空き家に対する取り組みは。

☞ ①改善された家屋もあるが交渉中の事案もあり、今後も取り組みを強化していく。

②障がい者の親なき後の施設であるグループホームを設けたい社会福祉法人は、区の仲介があれば土地や建物の確保が容易になる。空き家利用とグループホーム整備の2つの課題を克服する有効な方策ではないかと検討を進めている。

☞ **ものづくり中小企業支援ではベテラン人材の活用と技術の継承が課題であるが本区の対応は。**

☞ 企業が有能な技術者を育てていくことは非常に大切であり、現在もさまざまな形で技術継承のための支援を行っているが、これからも業界団体と相談しながら努力していきたい。

☞ **戦後70年平和に対する取り組みについて**

①68万区民の生命を預かる区長の平和への思いは。

②平和教育への取り組みは。

③未来の区民のための記念誌「(仮称) 平和への誓い」を出版してはどうか。

④戦時中、集団学童疎開でお世話になった鶴岡市の皆様への感謝の気持ちを区民の目に触れる形で残すために、本区ならではの平和の祈念碑の設置を。

☞ ①戦争がもたらす不幸というものを絶対

に忘れないことがまず第1番である。平和を身近なところから作り上げていくためには、争いのない地域社会をつくりあげていくことが大切である。

②大変重要なことと考えている。本区の小中学校では、道徳や社会科の授業などにおいて副読本も活用しながら平和教育を行っている。今後も継続して充実を図っていく。

③どのようなものが良いか、いろいろ考えていきたい。

④鶴岡江戸屋敷では、鶴岡市の職員が交流の輪を広げており、ひとつの祈念碑といえる。祈念碑の設置については、今すぐ具体的にどうするという答えはできない。

首長多選の問題点、道徳心を育む教育を



民主党・改革クラブ
中津川 まさあき

④ 多田区長は4期16年の任期の中で、卓越した実務能力と行政手腕を発揮してきたが、首長多選の弊害を指摘する声もあがっている。多選批判に対する考えは。

⑤ 首長多選はその時の状況や人物によって弊害が生じる場合や成果が出る場合もあり、一律的に決めつけることはできない。5期目の是非については区民の評価を待つだけである。

④ 小中学生向け道徳教材「私たちの道徳」の活用状況と文部科学省の「家庭に持ち帰らせるように」という通知への対応は。

⑤ 区内すべての小中学校の道徳の時間に活用しており、すべての学級で家庭に持ち帰るよう指導している。学級学年通信や参観日、PTAの協議会を通じて活用の呼びかけも行っており、「私たちの道徳」の感想や意見などをもらっている学校もある。

④ 歴史教育の在り方は、「平成26年度教育重点目標」の中の「地球人」なる言葉の意味合いを考えるべき。

⑤ 歴史教育は「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を養う」という学習指導要領をもとに実施している。グローバル教育は「区民一人ひとりが我が国の歴史や文化を大切にするとともに世界に目をひろげ、国籍や文化の違いを乗り越え、世界の人々と交流を深めて互いに理解し地球とともに生きる地球人としての発想を持つ」という考え方である。

④ 生活保護法の適用対象に外国人は含まれないとする最高裁の判決を受け、本区に居住する外国人の生活保護受給者のあり方の再検討を。

⑤ 現状では当分の間、一般国民への取扱いに準じるという昭和29年厚生労働省の通知に基づき、取扱いが適切であると考えている。

庁舎移転建設は区民参加で積立て金活用で暮らし支援を



日本共産党
小俣 のり子

④ 庁舎移転等の検討段階から透明性の高い情報公開や区民参加のあり方の検討を。

⑤ 時期が来れば経過も含め話ができる。議

会の意見は区民を代表する意見であり、最大限に尊重されるべきである。

④ 積立基金を活用し、保育園・学童クラブなどの正規職員採用と区民生活支援の充実を。

⑤ 区政安定のため簡単に基金は崩せない。

④ 子育て支援の拡充について

① 待機児解消は認可保育園増設で。

② 認証保育所保育料の補助実施を。

⑤ ①既存施設の定員拡大や小規模保育事業などにより待機児解消策に取り組む。

②現時点で保育料の補助実施は考えていない。

④ 篠崎公園地区のスーパー堤防とまちづくりについて

①スーパー堤防事業と用地買収の整合性は。

②堤防の中を通る補助288号線の危険性は。

⑤ ①用地購入は区画整理事業のためである。

②堤防の機能を損う設計ではないと確認している。

今、復興・童心・改善の心を問う



祖国日本
須賀 清次

④ 気仙沼への職員派遣を区長はどう考えるか。

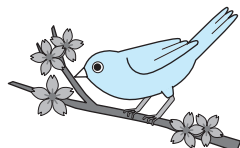
⑤ 復興の達成まで派遣を続けていきたい。もう少し復興が進んだら私も再訪問したい。

④ 大人も童心に帰る「童心亭」の建設を。

⑤ 小岩の文学的なふるさととを多くの皆さんに楽しんでいただくことを考えたい。

④ 船堀駅北口の交差点を整備し渋滞緩和を。

⑤ 今の状況では改善策がなく、難しい。



児童発達支援センターの設置・アスベスト調査と補助



青空
間宮 由美

④ 発達に心配のある子の療育について

①ワンストップ支援の児童発達支援センターを。

②0歳児からの個別集団療育の実施を。

⑤ ①法制度と現状を重ね、わかりやすくする課題である。

②状況が顕在化してくる1歳半から担当したい。

④ アスベストの対策状況について

①区施設のアスベスト調査と対策状況は。

②アスベスト台帳の整備と今後の活用方針は。

③アスベスト改修事業の国補助制度の活用を。

⑤ ①露出物はすべて除去、その他のものも飛散の恐れはないことを確認。

②台帳整備の勧告もあり整備を進めている。

③台帳整備後、除去費用補助の検討を行う。

④ 台風時などの減災のための対策について

①地下駐車場建築前の条例に基づいた指導内容は。

②雨ますを効果的なグレーチングへ変更を。

⑤ ①区は十分説明をし、最終的には事業者判断で行っている。

②下水道局と協力し、適切に対応していく。

タバコ対策と生活保護の不正受給について



一人の会
田中 けん

④ 平井、船堀駅での歩行喫煙防止を。

⑤ 個別な問題があれば個別に対応する。

④ 生活保護の不正受給にどう取り組むか。

⑤ 不正受給の通報を受けた場合、全て厳正に調査している。悪質なものは告発もしている。

オリンピック・パラリンピック開催に向けて



民主党・改革クラブ
金井 茂

④ 「江戸川区歩行喫煙及びポイ捨て防止等に関する条例」が施行され、周知活動や指導員による区内各駅の巡回・啓発などさまざまな対応をしているが、条例の実効性の乏しさを見ると、たばこ対策の遅れを指摘せざるを得ない。2020年東京オリンピックを控え、喫煙者のマナー改善を進めていくことは喫煙者の課題であるが、ポイ捨ての現状をどのように捉えているのか。また、条例を確実に実効性のあるものとするために罰則化も視野に入れた取り組みへの見解は。

⑤ たばこだけでなく放置自転車など、いろいろな問題がある。区民の皆さまと環境をさらに良くしていくために条例改正も必要だと思うが、オリンピックを契機に、スローガン等をつくりながら解決に向け、地道に取り組んでいく。

④ 日常生活の中でAEDを目にする機会が多くなってきているが、使わなければならない時に実際に使われたケースはわずかである。誰もがAEDを迷わず使いこなすことができるよう、正しい理解と操作方法などのさらなる周知徹底を。また、将来を見据え、教育の場において積極的に講習、実践トレーニングを行うべきである。全中学校にダミーのAED練習機を導入し、将来的に全ての人を使いこなすことができるような取り組みを。

⑤ AEDの操作については、繰り返し確認をしていくことが自信につながる。また、子どもの頃からAEDに触れて覚えることは大切であり、消防署と連携して小中学校で繰り返し訓練をしている。今後も防災訓練等の場を活用し、AEDに触れる機会を増やしていく。

委員会傍聴の受付時間の変更について

委員会傍聴の受付時間が下記のとおり、変更となりました。

○午前開催の委員会：開会日当日の午前8時30分以降

○午後開催の委員会：開会日当日の正午以降

予算特別委員会

予算特別委員会は、2月23日から3月9日までの間の8日間にわたり、一般会計と3特別会計の予算案について、審査を行い、広範にわたり詳細な質疑が交わされました。

委員会での審査を踏まえ、3月19日の本会議で採決の結果、平成27年度一般会計予算案及び介護保険事業特別会計予算案は賛成38・反対3で、国民健康保険事業及び後期高齢者医療の各特別会計予算案は賛成37・反対4でそれぞれ原案のとおり可決されました。

なお、委員会に一般会計予算についての修正案が提出されましたが、否決されました。

予算特別委員会委員 (◎委員長○副委員長)

◎ 片山ともりのり	大西 洋平	中里 省三	田中じゅん子
○ 川瀬やすのり	大橋みえ子	伊藤てる子	川口としお
中津川まさあき	ふかえ一之	福本みつひろ	島村 和成
ます 秀行	えぞえ亮一	ふじさわ進一	田島すすむ
金井 茂	窪田 龍一	セバタ 勇	
滝沢やすこ	田中 寿一	間宮 由美	
竹平ちはる	小俣のり子	竹内すすむ	

委員定数 19名 (委員の途中交代あり)



予算特別委員会の様子

平成27年度予算に対する各会派の意見

自由民主党 (賛成)

本区は平成13年から財政の健全化に取り組み、職員削減や民間企業への業務委託など徹底した行財政改革を行ってきた。平成26年度と27年度にはすべての事業を見直したことで財政調整基金の取り崩しを行わない予算編成を3年連続で行い、経常収支比率が4年ぶりに適正範囲の70%台に戻るなどの効果をあげてきた。しかし今後の高齢化による社会保障経費の増加、老朽化した庁舎・大型施設への対応、学校適正配置と改築などで財政負担の増加が見込まれる。さらに歳入では法人住民税の一部国税化や法人実効税率の引き下げなどにより、本区の歳入の柱である財調交付金が減収となる見込みなど厳しい財政状況は続いている。一方で、5年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを強化していかなければならない。

このように本区を取り巻く状況が変化する中、平成27年度予算案について区民の立場に立ち真摯に審査を行った。

その結果、喫緊の課題である区民の安全安心、地域経済の活性化、健全財政の堅持に重点を置いた「将来世代に負担を先送りしない予算」と評価するものであり一般会計、各特別会計予算案に賛成する。

[主な要望]

○国民の三大義務のひとつである納税について公平・公正な負担の観点から滞納対策の強化とマイナンバー制度導入に合わせて多重債務者の現状把握と厳格な対応及び庁内における一元的な債権管理システムの構築を。

○東京オリンピックでの力又一競技実現に向けた取り組みと競技終了後の施設利用について区民が集える施設となるよう都との綿密な協議を。

○世界から人を呼べるよう江戸川区の魅力を区

外に積極的にPRするなど観光施策の充実を。
○ダンピングによる質の低下が生じないように入札における適正な最低制限価格の導入を。また、原材料や人件費の高騰により、契約の不調が増加していることから工事の発注時期や積算の現状を把握し可能な限り柔軟な対応を。

○区民税の徴収については、普通徴収から特別徴収への切り替えを推進し、徴収率の向上を。

○本区のボランティアの裾野を広げ、評価と感謝、信頼の心の育成を。

○勤労福祉会館は地域住民やサークル団体の意向を踏まえさらなる充実した施設に。

○新川さくら館を中心に西水門広場など周辺施設の利用促進PRを図るとともに利用手続きの一元化を。

○農業経営者の要望を的確に捉え、区内農業施策のさらなる充実と農地保全の促進を。

○地域コミュニティを活かした犯罪撲滅に向けた取り組みと夜間防犯対策の強化を。

○資源ごみ持ち去り対策のさらなる徹底と持ち去り防止条例制定の検討を。

○新たに導入される口腔がん検診を含めた、がん検診の区民への意識啓発を進め、受診率向上への取り組み強化を。

○不妊対策の負担は女性が背負ってしまう傾向があるため、男性の不妊検査費助成制度の検討を。

○元気な高齢化社会創成のためスポーツや娯楽などさまざまな取り組みを。

○生活困窮者自立支援制度について関係団体や地域と連携し、生活保護に至る前の自立支援策の強化を。

○年々増加している生活保護は不正受給に対するチェック機能のさらなる強化と就労自立に向けた一層の努力を。

○今後の社会情勢を見据えた、待機児童解消への取り組みを。

○京成本線立体化事業と京成小岩駅周辺地区の再開発事業の推進を。

○東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、レンタサイクルステーションの拡充や近隣区との相互乗り入れ、広告媒体としての活用を。また、防災・景観の観点から電柱地中化の推進を。

○葛西臨海公園の水と緑の自然を活かし、『東京のハワイ』をコンセプトにした公園整備を推進し、さらなるイメージアップの検討を。

○篠崎公園の防災整備促進と地域の声を活かしたポケットパークの有効活用を。

○子どもたちの人間関係や不登校生徒の現状把握及び教師と生徒の密な人間関係の構築を。

○子どもたちの安全確保のため、早期に通学路に防犯カメラ設置を。

○給食の調理業務委託業者の選定に関し、区内事業者育成を視点に地域精通のノウハウを活かして安全な給食提供を。

○互いに切磋琢磨し合う教育環境が欠かせないことから、文部科学省の見直しを踏まえ、教育委員会主体による全国学力・学習状況調査の学校別の成績公表を。

○基礎学力の底上げを図るため、地域力を活かした補習授業のさらなる充実を。

○子どもたちの体力向上のためトップアスリートとの交流機会の拡充を。

公明党 (賛成)

予算審議にあたり、「生活者優先の施策になっているか」、「区民生活の価値を高めるための施策になっているか」、「首都直下型地震に備え、災害に強い街づくりが十分に、かつ着実に進められているか」、「少子高齢社会が進む中で子育て支援や熟年者支援、障害者支援などの福祉施策は充実しているか」、「予算編成に当たっては最小の経費で最大の行政効果を上げられる予算案となっているか」などの視点から審査した。

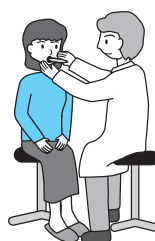
その結果、平成27年度江戸川区一般会計予算をはじめとする各会計予算に賛成する。

[主な要望]

○状況の変化に対応しつつ、これまで貫かれてきた優れた施策・健全財政の理念の堅持を。

○財政基盤の盤石化に向け、区内産業の活性化や魅力ある住みよいまちづくりに傾注を。

ガン検診受診率の向上



- 新公会計制度東京都方式の導入に伴い、平成27年度決算に向け財政の見える化の推進を。
- 災害時に避難所となる学校の備蓄品に簡易トイレの拡充を。
- 学校の防災井戸は避難所開設・運営訓練、防災訓練の機会に日常的な活用を。
- 防災行政無線のデジタル化により、情報の一元化を図り、区民へ素早く正しい情報の提供を。
- バリアフリーマップの改訂は障害者団体と協議し利便性の向上とカラーユニバーサルデザインに配慮したものに。
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向け公共サインの多言語化の推進を。
- 区内の駅のホームドア設置に向け、鉄道事業者への要請と連携を。
- 不燃化事業の促進に向け、助成制度がより利用しやすい制度になるよう都への申し入れを。
- 安全安心街づくりの観点から住宅等耐震化促進事業のより一層の推進を。
- 高齢化社会におけるさまざまなニーズに応え、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう高齢者住宅整備のさらなる推進を。
- 犯罪件数減少に向け、地域と協議し防犯カメラ設置の推進を。
- 雑誌や古着・古布の回収推進などごみ減量のさらなる取組みを。
- 共育プラザでのイングリッシュキャンプ実施など中高生が外国人と交流する機会の提供を。
- トップアスリートスポーツ教室の拡充を。
- 気仙沼への職員派遣の経験を活かし、実効性のある被災者生活再建システムの導入を。
- 勤労福祉会館等複合施設の建築には地域住民の声の十分な反映を。
- 熟年者の見守りのため、マモルくんの利用拡大と地域見守りのための名簿作成、安心生活応援ネットワークの拡充及び地域包括ケアシステムの構築への取組みを。



熟年者の見守り

- 熟年者向け地域情報雑誌は SNS などを活用し生きがいづくりに活かされるよう作成を。
- 障害者就労支援センターにおいて発達障害や高次脳機能障害の方たちへの対応の強化を。
- 重度・最重度の知的障害者の親亡き後の生活の場として空き家をグループホーム等に転用して利活用を。
- 待機児解消に向け、保育園の低年齢児の定員増や小規模保育事業、認可保育園の開設など保育施設の拡充を。
- 保育ママ事業継続のため退任保育ママ等の協力によるサポート体制構築を。
- 篠崎幼稚園の跡地を育成室に転用を。
- 口腔がん検診及び乳がん検診の受診場所拡充の周知と子育て世代等への普及啓発などがん検診受診率向上にむけた取組みを。
- 災害時医療コーディネーターの広域対応や災害時看護師ボランティア登録の仕組みづくりなど災害医療体制の充実を。
- 下水道局との連携強化で豪雨に伴う水害内水対策と自助の取組みへの支援を。
- 小学校統合に向け、子ども達の交流や特別支援学級の移設の準備などさらなる配慮を。

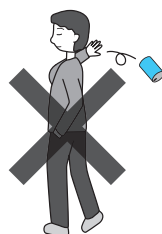
- 街路灯、公園の街灯等の LED 化を計画的かつ効率的に実施を。
- 小中学校の通学路への防犯カメラの設置と小学校における登校班の推進を。また、保護者や町会に不審者情報など緊急メールの情報提供を。
- 全小学校でのがん教育の継続実施を。

民主党・改革クラブ(賛成)

23区初となる新公会計制度の導入や基金を取り崩さずに前年度比マイナスの予算編成を行ったことを高く評価し、平成27年度一般会計並びに各特別会計予算に賛成の意を表する。

[主な要望]

- 特別区民税の特別徴収義務化については、丁寧な説明と適切な支援を。また、近隣自治体との連携を強化し、広域での取組みを。
- 国勢調査に非協力的な世帯を調査する調査員の負担の軽減を。
- 区立公園にも防災井戸の設置を。
- 学校改築の入札制度は区外業者も含めて幅広く業者を募れるような制度強化を。
- 駅周辺の公共施設に期日前投票所の設置を。
- 総合人生大学の学科の増設と時代のニーズを考慮した授業を。
- 学校授業の一環として子ども未来館の活用を。
- 防犯カメラの学校周辺や通学路、中学校への設置拡大を。
- 東京オリンピック開催を契機に「ポイ捨て防止条例」の実効性を高めるさらなる取組みを。
- 生活習慣病、特に糖尿病の予防について、徹底的な指導を。
- 低栄養に陥りやすい熟年者に食育の推進を。
- 放課後デイサービスの状況把握と誰もが安心して通える居心地の良い環境整備を。
- 真に支援が必要な重度の障がい児のため、障害の程度に応じた助成や給付制度も視野に入れ、支援給付のあり方について十分な考慮を。
- 外国人の生活保護受給について最高裁の判例を踏まえ、再考を。また、不正受給の根絶に向け万全な体制強化を。
- 子ども家庭支援センターの職員の強化と児童相談所の区移管の働きかけを。
- 公園は子どもたちが安心して遊べる本来の姿となるよう一層の努力を。
- 渋滞緩和のため京葉道路の拡幅と京葉交差点の左折レーンの早期新設を。
- 木密地域解消のため新しい密集住宅市街地整備地域の指定を。
- 中一ギャップを防ぐため、小中一貫校の新設を。
- 義務教育の中でAEDに触れる機会の増加を。
- 教師、保護者のネット知識の習得、学校裏サイトなどの情報の定期的な収集、子どもと携帯電話利用のルールづくりの呼びかけを。
- 教材「私たちの道徳」の持ち帰りの徹底を。



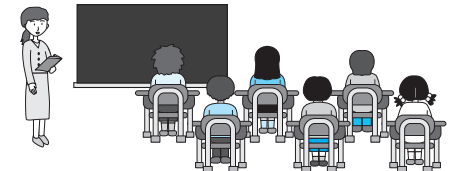
ポイ捨て禁止条例の強化

日本共産党(反対)

新年度予算には、認可保育園の増設計画など区民要求を一部反映した事業もあるが、区政の重要な問題点があり、一般会計予算、各特別会計予算に明確に反対する。

[主な反対理由]

- 3年連続「施策の見直し」を行い、福祉・保育施策などの削減を進め、高齢者と児童の1人当りの福祉費が23区最下位であること。
- 治水に役立たず、莫大な税金がかかる住民犠牲のスーパー堤防事業や住民の声を聞かずに選定した全く不要な道路である特定整備路線第144号線の整備を強行する姿勢。



少人数学級の実現

- 区庁舎を区民参加なしに移転・建て替えしようとしていること。行政と議会は、新庁舎建設のプロセスに透明性と民主的手続きを確保し、区民参加と協働を進めるべきである。
- 少人数学級の実現、すすくすくスクールでの正規職員の採用と補食の復活など、教育条件の整備を求める声に対する区の冷たい姿勢。

えどがわ区民ひろば(賛成)

27年度が子どもの貧困対策元年となることと現場の良心の発揮を期待し賛成を表明する。

[主な要望]

- 子どもの最善の利益にかなう育ての親への新生児里親委託導入について都と協議を。
- 学校図書館司書の配置やスクールソーシャルワーカーの設置、すすくすくスクールの任期付職員採用、学童クラブの補食の復活を。
- 犯罪被害にあっている子どもの保護につながるしくみづくりと公園の防犯性向上を。

青空(賛成)

予算案について、いくつかの問題点や課題はあるものの、全体として区民の基本的な人権と生活を保障するために、区民とともに歩みを進めているものと判断し、賛成を表明する。

[主な要望]

- 建築物におけるアスベストの使用実態を把握する台帳整備とアスベストサンプラーを「地域防災計画」に役立てること。また、アスベスト除去を進めるための補助についてはその方向性が示されたので早期創設を。

これらの質問の詳しい内容を含む第1回定例会の会議録は、6月頃にホームページでご覧いただけます。

URL:
<http://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/>

